

第5回八代市文化ホール等あり方検討会 会議録

開催日時	令和3年1月22日（金）10:00～11:30
開催場所	鏡文化センター 研修室

■出席委員

会長	本田 恵介	委員	岩崎 布見子	委員	多田 満
副会長	丁畑 幸美	委員	柏 昭子	委員	中山 英朗
委員	水本 和人	委員	森山 学	委員	石本 愛

■欠席委員

委員	川村 健治
----	-------

■市出席者

職	氏名	職	氏名
経済文化交流部長	中 勇二	厚生会館館長	林田 安夫
経済文化交流部次長	一村 勲	厚生会館主査	坂梨 英司
文化振興課長	鋤田 敦信	総合支援担当	坂本 友和
文化振興課長補佐	下津 恵美		

■その他の出席 なし

■傍聴者 なし

■協議事項

協議事項 (1) 八代市文化ホール等あり方に関する報告書（案）について
--

■会議録(要約)

【会長挨拶】

いよいよ最終回となり、今回これまでに配布いただいた資料や議事録を見ながら振り返ってみました。

最初のころは市民アンケートの結果、H28年に策定された3ホールの運営方針などについて委員の皆さんの利用経験を踏まえながら議論いただいた

その後、県内外のホールの事業や運営について様々な事例を紹介いただき、それを受けて各委員から意見が出された。現在休館中の厚生会館のあり方については意見を一つの方向にまとめるのはなかなか難しいと感じている。厚生会館については検討会と並行して市の方で劣化度調査も行われており、前回は再稼働するために必要な改修費用の概算額が示され多額の費用が見込まれることが分かった。また〇〇委員から厚生会館の建物文化としての価値について詳し

くご説明いただいている。

委員の皆さんから八代城跡一帯の歴史文化ゾーンの一つとして施設の利活用を考えられないかという考えがある一方で、しかし文化ホールとしては使いにくい、あるいは改修して客席数が減ればほかのホールと差がなくなる、このエリアはもともと駐車場が足りないなどという声も聞かれている。

事務局ではこれらの意見をもとに報告書案として取りまとめてもらったが、最終的な報告書は今日を含めた5回の議論を反映することになる。

当初示されていたこの検討会の三つの目的、具体的には一つ目は市内4つのホールの現状確認、課題整理、解決案の検討、二つ目は市の施策である市民文化の向上についての課題整理と検討、三つめは施設の老朽化への対応を含め市の文化施策の将来像、文化ホールのあり方についての検討、こういうものに沿った内容にする必要がある。

新型コロナにより検討会の回数も少なくなり、ある程度目的を果たせたとすると、議論を深められなかった部分もあるが、今後の八代市の文化施策に建設的な意見が反映されるよう積極的な意見をいただきたい。

(1) 八代市文化ホール等あり方に関する報告書(案)について

【事務局より説明】

【委員】

5ページのソフト事業のところ、例えば展示とかコミュニティーセンターのホールとか、保育園の発表の場など、具体的な例を示してもいいのではと思った。それと日常的に気軽に立ち寄れて滞在のできるというように「日常性」というものを強調してもらえたらと思う。

6ページで、厚生会館のところでは、周辺の伝承館、博物館、図書館との連携というのでも考えられるのではないかと。公共施設が集まっているので機能的にも連携が可能と思う。周辺環境と調和したという言葉でも表現できているのかなとも思うが、歴史的景観を生かすといったことも周辺環境との調和ということに上手く含まれているか、「歴史的な」という言葉を含めてもらっていいのでは。

【委員】

6ページ、市内の各ホールの今後の方向性というところで、鏡文化センターについて言うと、2行目に「市中心部から距離があり、立地面で不便な部分も

あるため認知度も低い」とあるが、鏡文化センターを知っている人が約70%、知らない人は約23%だった。果たして認知度が低いとっていいのか。この書き方としては、「アンケート調査で知らない人が23%いる」のような、実際の数値を示した方が良いのではないか。

また、情報発信と書いてあるが、大事なのは何を発信するかということでありその前には情報収集は絶対欠かせない。それで「情報収集」という言葉を入れたらどうか。どんな情報かという、まず大前提は地域の文化や文化団体、いろんな教室、それから教育の場として学校などとの連携が不可欠だと思う。これらと連携しながら情報を収集して必要な情報発信することが大事だと思う。

鏡では鏡支所日より、コミセン日よりなどが市の広報誌と一緒に毎月配布されているのでよく状況が分かるが、この文化センターについては何も情報が入ってこない。これらと同じように「鏡文化センター日より」というものを広報誌と一緒に出してもらえたらもっと町内の方には届くのでは。

それと、情報発信の仕方として桜十字ホールでホームページを活用しているが、鏡文化センターも独自のホームページが必要。文化センターの情報を見るためには八代市のHPを開いてそこから入るしかない。鏡文化センターのHPが直接あれば皆さんに周知されるのではないか。

【委員】

報告書は大変良くできていたと思う。最後の7ページで、「市民が身近に質の高い文化芸術に触れ、感動し、創造性を育てていくためには、市民の発表の場としてのみならず、……」という、この部分が八代にとっても文化ホールにとっても一番必要だと思うし、うまく表現されていて良い文書ではないかと思う。3ページのアンケートからの数字だと思うが、自主文化事業に28%も参加されているのか疑問に思う。実質どのような算定方法で出しているのかなど疑問に思った。

この報告書はパブコメなどされるのか、市長に報告するだけか。

【事務局】

これは計画ではないので市長に報告するだけである。

【委員】

〇〇委員の懸念事項でボランティアの話があったが、八代市のホール施設あり方として人材育成があるのであれば、やはりボランティアの育成も課題だと

思う。SNS の浸透で博学の人が周りに多くなり自分たちだけが特権意識で舞台芸術をとという時代ではない。ホールの舞台機構についても、ボランティアを公募してもきちんと技術を持った方が来られるのではないか。一番基本の育てるという意味ではちゃんとレクチャーすればいいし、今、厚労省の中でも舞台機構の技能士もあるし、資格を持っている人もたくさんいる。3級ぐらいの人も含めて、ボランティアに定期的に勉強してもらうのも一つの人材育成ではないのか。ボランティアだから興行の場合に支障があるのではという懸念事項もあったが、興行の場合は乗り込みで来られるので、会館の職員が携わることは殆どなく、全部自前でされるのでほぼトラブルの心配ない。自前で文化を育てるということを考えれば、そういった勉強会などもある。育てるということが一つの課題なので、これを一つ加えていただけないか。公立ホールとして地域の人達を育てるのも一つの文化だと思う。

方向性のところでも、桜十字ホールの部分だけが、商業施設として位置づけで出来ている。ほかのホールは教育施設で出発しており、そういう意味でいろんな制限があったのでハーモニーホールはお金を出せばなんでも利用できるという感じで設置されたと認識している。

目的がそれぞれ違うということで、3ホールはほぼ公民館的な要素が強い。

八代市公民館の部分で営利目的についての表現があるが、営利目的でも利用しやすい様にする 것도方向性の一つだと思う。

また、駐車場がないという議論があるが、そこだけに目が向いているのではないか。例えば鏡文化センターの敷地はものすごく広い、厚生会館も広場がある、千丁も広い部分があるが、あれは駐車場だけという目的ではなく、なぜ広いかというと、厚生会館は立ち見を含め1200人入るが、万が一何か起きたときその1200人をどこに逃がすかを考える事が必要。駐車場も大事だが、防災という面も含めて広い空間が必要だということも考えなければならない。

知り合いから電話をいただいて、「伝承館ができた後に厚生会館を解体するのでは、という話を聞き心配している。」と聞いた。厚生会館を皆さんが重要に思っているということは事実であるのでよろしく願います。

【委員】

今日は最終回ということで、ほかの委員さんとは方向性はちょっと違うと思うが、私なりの見解と選択を話したい。

まず厚生会館の劣化度調査報告をうけて、厳しい状況ということを認識したが、経過年数60年を考えれば無理もないことであると思う。現場の人間とし

て言う、施設としての本質的なものが失われており、老朽化が甚だしいというのは周知の事実である。建物の価値は理解しながらも、この状態は人間でいうと末期症状と同じだと思う。そこに多額の費用を投資をして延命処置をすることは、果たして子供たちの将来にとって本当に利益になるのかどうか、今一度慎重に見極めて再度検討をお願いしたい。

特に今、このコロナ禍において歴史の変化が加速する時代に突入していると言われている。そして近年次々と大きな災難が起こるたびに、必ず私たちにどうすべきか選択肢を与えられている。この危機をきっかけに八代の未来を左右する重要な選択をこの委員会に与えられているのはとてもいいチャンスであり、大きな転換期として新しい価値観を作っていく時期だと思う。

もし私達大人が未来に向かって、思いやり、寛容、知恵等、その道を選べたら、次世代の有益となるよう行動することができれば、それがきっと八代の夢、希望に繋がると信じている。これからの地域、未来は若い人しか作れないと思う。この市を託される側の視点に立って、負の遺産にならないように整理統合していく必要があるのではないか。

この4つの施設も同じ目的、役目、理念を抱えている、ここは後世に目を向けていただいて段階的に整理統合し近未来にふさわしい施設の建設に投資することを選択する。そもそも合併後、市がこれらの施設を管理することになったが、稼働率も収益も上がらず、維持管理費だけが膨らむ、ということは市の財政上困難になることが明らかである。

慣れ親しんだそれぞれの校区の施設を守りたいという気持ちもあるが、もう少し未来の、子供たちのことを考える責任があると思う

困難な時代ではあるが、まずは市がきちっと収まるように、我々も協力し、譲り合い団結し、ちゃんと生きて報われるという市になって欲しいと思う。

【委員】

5 ページの△△委員の言われたような、気軽に立ち寄れる取り組みについて、このままだと、気軽に立ち寄れるようなカフェにするとか 2 階のピロティを個展に貸し出せるようなスペースにするという意見は届くのか心配である。

たとえばこのまま注釈を入れなければ、そこがピンと来ないと思うので、是非その意見を注釈として入れてほしい。

カフェについては、ピアノ講師という立場から言わせていただくと、どこの先生も生徒数が減少している。ホールの500人規模のステージでやるとすると1人ではできない。生徒が10人前後という先生もかなりいるので、その1

0人ぐらいを発表させる場所が本当に欲しい。厚生会館のお堀が見える場所にピアノを出してもらって、ちょっとしたコンサートや発表会がやれる場所が欲しい。(ホールで)やるにしても3,4人あつまって準備する必要があるので、そこまで準備がかからずに、ちょっとお茶を飲みながらみんなの発表を聞ける場所が欲しいと思う。

八代市公民館についてだが、八代市公民館ホールと変更されたときにみんなピンと来ない。できれば(名前の)後ろに「パトリア千丁」をくっつけて欲しい。公民館ホールと聞くと、そこに舞台がちょっとついているだけなのかと思う。平成8年から慣れ親しんだ名前なのに、公民館ホールとなると横のコミセンのホールなのかと間違える。区別が分からないので、できたら「八代市公民館ホールパトリア千丁」として欲しい。

また、この部分の下のところ「このホール部分の活用の幅を広げるため管理運営体制の見直し」と書いてあるが、公民館と(ホールを)分離、区別させた管理運営体制のような文言を入れてほしい。

厚生会館については、存続を望む会があるという話をきいて、愛着があるのはすごくわかるが、改装した場合に、文化祭や合唱祭、学校関係など、今まで使っていた限られた人たち以上の利用は見込まれないのではないかと。座席数も減るのでそれ以上は見込めないと思う。そこにこのような多額な費用をかけるのか。概算が出るまではみんな何とか改装して、と思ったのではないかと思うが、残そうと思っている方たちがこの概算の予算を聞いた時に、これは最低でもかかる費用だと思うので、これを聞いて皆さんはどう思われるのかなと思った。

それと一番最後7ページの部分、私もここに尽きると思う。「新たな県南の拠点ホールとなる施設の整備について検討してもらいたい。」もう、できればこれが一番いいと思う。

【委員】

5ページで、「音楽や芸術に触れることで人々の絆を生み、心の豊かさを創造していくためにも・・・」という文面があるが、やはり、表現の場があることが市民の生きがいに繋がることを入れてほしい。ネットでつながれる時代ではあるが、表現する側と受け取る側がいる、人と人とのコミュニケーションを生み出す場所を提供することが大事だと思う。確かに金額的な部分もあると思うが、そういう拠点を作らなければもっと人と人の距離は遠くなってしまわないだろうか。音楽や芸術という分野でしか表現できない子供たちもいるこ

とで、子供から大人まで、生きがいづくりの場を提供することが必要であり、そのような文面を残してほしい。

【委員】

管理体制の見直しと人材育成、という各ホールのところに書いてある管理運営体制の見直し検討、市民参加型ボランティア参加のところと、・・・言葉として書いてあるが、現実的にどう作っていくかが書かれていない。ホールごとに性格も違うのでホールごとの部分にもっと書いてほしい。

普段桜十字ホールを使っているが、ホールの舞台のみを使用して、人形劇や音楽の公演の設備を設置して、同じスペースに少し離れて観客が座るというやり方で公演をしている。会員数が90人ぐらいなのですべて来ても90人、子どもが30人、大人が大体30人ぐらい、60人ぐらいでちょうどいい広さである。子供たちが発表する場としては、桜十字ホールの練習室を使っている。ピアノもあるので利用している。もう少し、「文化芸術の鑑賞の場として利活用の促進を図るとともに・・・」ここに市民参加型の企画運営体制を作りたい。ここは商業施設であるということで委託管理をしているが、ここにも我々市民の意見を述べられるような一文を付け加えてほしい。

また、▽▽委員が言われたように八代市公民館のところにもっと文章を厚くして、利用しやすいだけでなく、生涯学習の拠点として、そして市民のコミュニケーションができる、表現活動のできる場所として提供してほしいと思う。

千丁が公民館になっているが、八代市の地図を見たときに市民がとても行きやすい場所であると思う。ここをもっと利活用できるようにしてほしい文章を入れてほしい

鏡は情報発信をホールがすることがとても大切だと思った。

厚生会館については、〇〇委員の報告を聞いて、あの場所の歴史的な価値を知らなかったの、この段階で早急に結論を出すのは苦しい。ホールの中の昭和のデザイン性や、近代建築の意図などを読ませていただくと、近代建築の走りとして世界中に外部空間理論ができたんだなあと分かったので、あのパンフレットはみんなが見たほうが良いと思う。

【会長】

皆さんのそれぞれのホールに対する思いが改めて伝わってきた。

皆さんの意見の中から、二つほど取り上げてみようと思う。

□□委員や■委員から、独自のホームページをという話が出たが、現在、

熊本県内の公立ホールが 35 館加盟しているが、そのうち直営が 10 館あるが、どうしても行政のサイトの中に入り込んでいるので、パッと鏡文化センターという形の HP はなかなか作りにくいのではないかと思います。そうとなかなか文化センターで何をやっているかを知るためには入りにくいづくりになっていると思う。むしろ民間の指定管理が運営しているほうが、桜十字ホールでも、一発でその記事にいける。それはまた市の方でも議論がある部分かと思うので、すぐに取り掛かれるのかなと感じた。私自身は独自にあったほうが住民の方は使いやすいと思うし、実は県立劇場のホームページのトップページに新しくバナーを作って、県内の公立文化ホールのバナーを作って、そこに入れば県内のホールの一覧で出て、会館名をクリックするとその HP に飛べるように計画をしている。できれば年度内に作りたいと思っている。

もう一つ、●●委員から、技術者を含めたボランティアのこの話が出ましたが、●●委員がおっしゃる通り、全国ツアーで回ってくるようなものは乗り込みというスタッフが全部やってくれる。一部大道具の搬入に地元から何人用意してほしいと言われることがあるが、それについてはそれほど専門性が必要というわけではなく、どちらかというところ力のある若者を求められているのでそれほど懸念する必要はない。

5 ページの管理体制の見直しと人材育成の中に、「長期的かつ専門的知識や技術を持った人材の雇用が可能となるような」とあるので、これをきちんと担保した上で市民の方のボランティアを育成するというのはあってもいいのではと思う。県内のホールを見ても比較的若い人がホール職員として従事している。話を聞いてみるとほとんど経験がなかったという人が、日々ホールの仕事に携わりながら技術を少しずつ身に付けているような状況であるので、きちんとボランティアを育成する仕組みを作れば、地元で進めて行くことは十分可能ではないかと思う。

今意見をいただいたが、事務局から何かないか。

【事務局】

今いただいた様々な意見をもう一度報告書に書き込んで、最終的なものを作っていきたい。様々なご意見をどこまで反映できるかは分からないが、可能な限り反映させていきたい。

会議の方は今回が最終回なので、最終的な確認はできれば会長にご一任ということで、その後みなさまには報告を送付させていただきたいと考えているがそれではよろしいか。(了承)

【会長】

今日、皆様のご意見を伺う中で今回お示しいただいた報告書案については基本的には同意いただけたのではないかという印象は受けた。細かい修正は必要かと思うが、もし委員の皆様からのご了解をいただけるのであれば、事務局からの話も合ったように、この報告書をベースに、もう一度事務局で詰めていただき、細かいところは私の方で責任を持って確認させていただくので、報告書の議論はここまででよろしいのではないか。

【委員】

委員さんの中からも改修費用の件が出ているが、厚生会館についての表現で誤解ではないけど、〇〇委員の歴史的価値の部分を盛り込んでもらうのが良いのではないかと思う。

それと八千代座などもそうであるが、やはり歴史的価値のあるものを維持するのにはお金がかかるものである。

6ページ下の方に、「十分な座席数を備えたホールが必要である」と書いてあるが、参考までに、前回、玉名市民会館の話が出たが、建設にかかる総事業費には触れられていないので、もし新しいホールが必要というのであれば、玉名市民ホールぐらいの施設を建てるのにいくらかかるのかを書いたらどうか。それと歴史的価値を保存するためにこの厚生会館の改修費用というのを相互比較できるようにしたらどうか。玉名市民ホールの総事業費として新築で建てた場合の耐用年数と毎年の維持管理費用を対比させて、厚生会館がこの金額をかけて改修し、その後の維持管理費用を対比して説明としてあると分かりやすい。ただ単に概算の金額だけを見るとみんな、えっと思う。新しいということであればそれなりの・・・実際いくらぐらいかかるのか。それを比較したときに、歴史的価値との比較したらどうなのか、表でまとめてもらうと分かりやすかったかなと思う。

【委員】

先ほど、厚生会館の保存に向けてのグループができているという話があったが、最近あった話では、厚生会館の動きとして、前回話した近代建築を保存する団体ドコモモという会社の方が厚生会館を見せてほしいとって来られた。これは芦原義信さんということで外部空間論に目が行きがちだが、厚生会館はデザイン的にも優れた建築物である。これがドコモモでどういうふうに取り上

げられていくのかは話は別であるが、残していく建築に値すると言われた。

もうひとつ、伝承館を設計された平田晃久さんと連絡する機会があった。平田さんの話のポイントは三つあって、一つは伝承館はそもそも厚生会館の本館を前提として設計されたものであることがひとつ。4つのホールだけの比較検討だけでなく、八代中心部の価値について議論するべきだということで。江戸時代から始まって近代の厚生会館、ポストモダンの博物館、今回の伝承館とつながっている時間の連鎖を断ち切らない方がいいんだという話をされた。また、ホールの性能的な観点からだけでなく歴史的な景観から検討することが今の全国的なスタンダードだと話をされ、その点を考慮したほうが良いのではと話された。

昨日学校の授業の一環として伝承館現場を見に行ったときに話を伺ったが、あの伝承館の複雑な屋根の形であるが、屋根のどのあたりにどのぐらいの風が吹くかを実験した時に、やはり周りの建物の存在が反映してくるので、空間的、機能的に伝承館と厚生会館が関連しているということだけでなく、風などの環境も厚生会館があることで左右されることが挙げられるのかな、ということであった。

【事務局】

そのあたりの玉名市民会館との比較検討も行っての検討となっていく。〇〇委員のいただいた意見も考慮に入れ行政としての検討が必要になると思う。

【会長】

検討会はこれで終了とさせていただきます、あとは市の方にお任せしたい。